

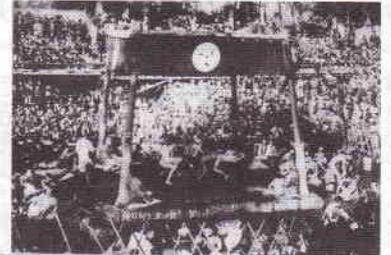
大井第一小学校



同窓会会報12号

大井第一小学校同窓会 発行責任者 津田 照通 2010年4月

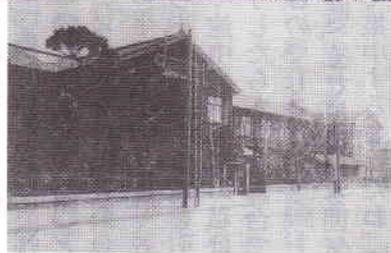
鹿嶋神社の素人すもう



大正時代の来迎院



つっかい棒で校舎を支える
昭和10年代



昭和27年入学式



第二回ホームカミングデー 会場風景



○第三回ホームカミングデー

懐かしい「大井第一小学校」に集まろう

鹿嶋神社祭礼の日

十月十七日(日) 十一時～十五時

★クラス会・同期会の集合場所としてご利用下さい

大井第一小学校への思い

校長 大島 久幸

大井第一小学校に赴任して1年が経とうとしています。私としては、区内で4校目の学校です。大井第一小学校との出会いは、20年ほど前になります。その当時は、大田区の少年サッカーチームの監督をしていましたので、東京都の予戦で大一ファイターズと対戦しました。大一ファイターズは、現立石副校長率いる品川区屈指の強豪チームでした。私の大井第一小学校に対する印象は、スポーツが盛んな学校というものでした。

それから縁あって、品川区の学校に勤務させていただくことになり、大井第一小学校を他校から見ても、品川の名門校であることを認識しました。

池上通りを挟んで、閑静な住宅街、活気のある商店街、来迎院・鹿嶋神社など緑豊かで環境の良い地域にある大井第一小学校は、あこがれの学校でした。

そのあこがれの第一小学校の校長を務めさせていただける光栄とともに責任の重大さを感じない日は一日としてありません。

なぜならば、歴代の校長先生方ほどの方も実力者で、品川のはずれの第三日野小学校の校長経験しかない者にとっては、少々荷が重いと思っていますからです。

しかし、先輩諸氏が築き上げ伝承してくださった大一ブランドを汚すことなく次へつなげることが、わたしに課せられた使命だと思っています。この

1年間、小学校教育6年間の成果を子どもの姿でお示しできるようにと「自慢できる6年生、6年生には自信があります」と言えるようにすることが目標でした。

おかげさまで、保護者や地域の皆様のご理解ご協力があり、職員一同がチーム大一のメンバーとして頑張ってくれていますので、この会報が発行されている頃には、「この間の卒業式は立派だった。さすが、大井第一小学校だ」という声が飛び交っていることを信じています。

思い出すままに

旧教職員 S 21〜35年

昭和13年卒 松崎 滯子

昭和21年3月末、空襲で焼けた鈴ヶ森小と大井第一小とが焼け残りの浜川小の校舎に間借りをしていた或る日、当時の鈴ヶ森小の内田校長先生に「貴女は大井第一の卒業生だから第一へ転任したらどうですか?」と言われました。その時は喜びで一杯になりました。「もう間もなく廃校になる。」と言われていた鈴ヶ森小の教員がそれぞれに転任先を考えねばならない時期に、私はこうして行く先がきました。それから何と14年間も大井第一に勤務することになったのです。

昭和21年4月から3年女子組の担任になりやがて男女組になりました。4年生になったばかりの子供達が暑い最中、重い机を持って坂道をあがる引越しの作業は大変でした。でも狭いな

らも自分達の新校舎に入れた時は皆でほっとした喜びがありました。

私のクラス4年竹組は素直で男女仲のよい組になっていきました。時には学校園で採れた薩摩芋を煉瓦や石ころの入った水のないプールの中で蒸して食べたり、映画《鐘の鳴る丘》を鑑賞して涙を流し合ったり、また或る時は教室の後方に机を片寄せてステージ代わりにして劇をやりました。劇作家も監督も配役も子供同士できめて皆一生懸命でした。今思うとよくこんな時間がとれたと思います。私も20代の駆け出し教師で夢中だった頃です。

この時の子供達が卒業した時は全身の力がぬけて、同時に深い寂しさを味わいました。

最初の4年間と最後の2年間は強い印象が残り、まん中の8年間は1・2年生、3・4年生と、2回ずつくりかえして担任したと思います。それぞれの学年に低学年ならではの楽しい思い出がありました。一番心に残ったことは、佐治先生作曲の《月見草の咲く頃》と言う美しいメロディの歌を日比谷公会堂で発表した時の事です。たしか5・6年の女子が出演しました。子供達を引率して駅まで行く途中、小心者の私は佐治先生に「どうしたらあの大舞台であらなくてすむのでしょうか?」と伺いました。その時「それは曲の雰囲気をしつかり考えて集中することだね。」とおっしゃった事が忘れられません。本番の時はまばゆいライトのもと、先生のお言葉を思い出して落ちついて伴奏ができました。

その後も卒業式や音楽朝会の時など佐治先生のお手伝いで伴奏をさせていただきました。

昭和30年代に入り、教員は十年以上同じ学校に勤務することはどうか? という風潮になり中でも「大井第一は、他校に行けばすぐに教科主任となるような先生方を校長はかかえこんでいる。」等という風評が耳に入るようになりました。事実、国語には梶原先生、算数は田中歳一先生、体育では武井先生、音楽では佐治先生と、品川区では五本の指に入る立派な先生方が揃っていたのです。無力な私も十年選手になっていましたので転任を考え始めておりました。

昭和22年ベビーブームの時の子供達が5年生となり《松・竹・梅・月・雪・花・星組》と「宝塚のようだね。」と言われる位の大人数の学年の、私はまた竹組の担任となり、教室の中は子供が一杯で机間巡視もままならない程でした。

多分これが大井第一での最後の学年になるだろうと思いつつ、先ず男女仲よくすることを基本に、努めて休み時間(大縄とび)や(陣取り合戦)など大勢でも遊べる遊びをすすめました。教室では6人1組のグループをつくり家族のような呼び名で互いに教え合ったりさせました。このような毎日の中で、休み時間の校庭を眺めていらっしやした森武士先生が「6年生位になると男女一緒に遊ばなくなるのに、竹組はよく遊んでいるね。」と言って下さったのが嬉しく心に残っています。

この子供達とも35年3月に卒業式で別れ、また全身の力がぬけて子供達を手放した寂しさばかりが残りました。

今、この2回の卒業生達は、50年、40年と年月が過ぎて折りにふれて楽しくつきあえる幸せを私に与えてくれます。

思えば自分が生徒の頃(昭和13年頃)は、「鉄は熱いうちにきたえる。」という精神で特に6年生の時など朝礼の前に「朝問題」と称してプリント1枚を仕上げなければ朝礼に出る事も出来なかつたり、毎日みっちり6時間授業で一生懸命教えて下さった草野先生。自分が教師になってみて先生のご苦労がよくわかります。

私は昔の先生の事を偲び「こんな教師で申しわけない。」と卒業生達に心で詫びながら、母校大井第一の更なる発展を心から願っています。

空を見よ

—徳永先生の「五十音ことばと謎」—

昭和29年卒業 三橋 三智子

(旧姓・土肥)

早くも50年も昔のことになりますが、昭和25年4月から9年間本校で教鞭をとられた懐かしい恩師に徳永昭典先生が居られます。

長崎県島原よりご上京。私たちが3年の時、梅組を担当され本校で教鞭のスタートを切られました。

昭和3年のお生まれと伺いますから当時22才の熱血青年。まだ戦後の苦しい時代で物資も乏しく、混乱の中でみんな懸命により良い明日を夢みてが

ばりました。

徳永先生は、その後大田区・目黒区の数校を歴任され、目黒区鷹番小学校校長を最後に勇退されましたが、その後も幼稚園長として次代を担う真摯な子供の育成に尽力され、現在は「書」を通じて地域の方々と生きる喜びや元気を分かち合い、悠々と人生を謳歌しております。

さて、先生にはお孫さんのために作られたという「五十音ことばと躰」という箴言集がある事を知りました。真理は常に永遠であることに改めて思い至る名言集です。

先生に私たち同級生のみならず全ての同窓生の子供や孫にも是非伝えたいものだとお願いしたところ、本紙掲載を快諾されましたので、先生からのお便りとともにここに紹介させていただきます。

余談ですが、本稿のご寄稿を先生にお願いするうちに久しぶりに同級会を開こうということになり、過日懐かしい大井町に23名の有志が集まり、50年若返って楽しい一時を過ごしました。先生は80才におなりですが、大変お元気で神奈川県白楽近くにお住いです。現在も書道と週2回のテニスを楽しんでおられる由。現況を併せてお伝えいたします。

五十音ことばと躰

旧教職員 S 25 ~ 34年

徳永 昭典

大井第一小学校は私の教職生活の出

発点です。

何も分からなかった私を育てて下さった多くの先輩、同僚、地域の方々、保護者の皆様、子ども達、すべてが私の宝物です。

その同窓会からのご依頼により「五十音ことばと躰」のことばをお届けします。

現在、わが子、わが孫達が学校に在籍している方々には多少なりとも役に立てばと思ひ敢えて依頼に応じました。但し、この項目は子どもや孫達に読み聞かせたり暗誦させたりするのではなく、大人がこの項目の主旨を理解して躰や習慣形成に生かされることが肝要かと思ひます。



あ… 挨拶は人より先に声出して。

・ ありがとうの心持つ子は幸せつかむ子。

い… いい言葉 反復練習 何回も。う… うそつきは泥棒のはじまりだ。気をつけよ。

え… 偉い人、立派な人の伝記を読む。う… お母さんがなぜ叱るかわかるか君は。

・ お互いの話し合いこそ大切だ。言うべきときは、しっかりと言えよ。聞くべきときは2倍聞け。

か… 勝つても負けても真剣勝負。き… 基礎・基本。それは反復練習からだ。

く… 苦しさに打ち勝つことは、自分

に勝つことだ。

け… けんかして、手足を出せば負けになる。

こ… 腰伸ばし、姿勢正して、ハキハキと。

さ… 三人寄ればよい知恵浮かぶ。仲良しこよしの頭が動く。

し… 自分によいとこ悪いとこ、分かればよいとこ伸ばすこと。

す… 「すみません」とあやまる子どもや、すなおな子ども。友も出来るよ、教えも受けいれる。

せ… 先生も学校も好きな子どもは成績あがる。

そ… 空を見よ。楽しい時も苦しい時も空を見よ。ジーツと見よ。空が何かを教えるよ。

た… 楽しいこと嬉しい思い出いつばいつくろう。苦勞努力の結果で勝負。

ち… 小さい時から躰は大事。きびしいからとて甘えるな。

つ… つらくても我慢我慢の心を持ってば強い心が育つはず。

て… 手と手をつなぎ、心つなげば何でもできる。

と… 友達がいやがることをするのはよせよ。いじめも同じ。その身になつて。

・ 読書は心の栄養。心に残る本持てば一つの幸せ生まれるよ。

な… 何事もよくなる工夫をしているか君は。工夫なくして進歩はないぞ。

に… 二度あることは三度ある。注意大事。油断大敵。

ぬ… ぬらりくらりと弁解する子は、その場逃れの卑怯者。

ね… 寝ころんで本を読むより起きて読め。

の… 能力はまだまだ伸びるぞ君だから。考え抜いてやってみよう。

は… 履物を揃える子どもは心も揃う。「ハイ」の返事は心地よく。

ひ… 人はみな平等だ。差別なし。区別と差別は違うんだ。

ふ… 不平不満は誰にもあるが、我慢強さが足りないせいだ。

へ… 変な人 道ばた どこでも声かける。心許すな危ないぞ。

ほ… 「本当に君はやさしい子どもだね」と言われる子どもになろうよ、いつも。

ま… 負けるくやしきよりも勝つ喜びを。

み… 見たり聞いたりためしたり。その繰り返しが人には大事。

む… むしゃくしゃしたら深呼吸。短気を起こすな後悔するぞ。

め… 迷惑かけても平気な子どもは考え足りぬ、幼稚な子ども。

も… 「もう少し、後一步」の心を持ってば、二歩も三歩も前進するぞ。

や… やる気出せ。やる気があれば何でも出来るし、楽しいものだ。

や… やつてみよう根気よく。

ゆ… 誘惑に負ける子どもは心が弱いよ… 「よくやった」と言われる嬉しさ。いっぱい作ろう。

ら… 楽するもよし、苦しむもまたよし。乗り切ることだ。

り… リーダーはよく考えて動き出す。

る……留守番でブザー鳴ってもドア開けない。

れ……連絡帳 おかあさんへの手紙だよ。帰宅したらすぐ渡せ。

ろ……朗読は大きな声ではつきりと。わ……わが命、人の命を大切に。命は人の宝物。

・分からねば分かるまで聞け、師と友に。

友愛と共生

旧教職員 S 31〜39年

石渡 欣久

私は、昭和17年に新任教師として原小学校に赴任しました。当時は、同一校に長年勤める教師は有能な先生だと言われまして。私も長年勤務している先輩の教えを受けながら原小学校で勤務を続けました。

ところが、私が原小に16年間勤めた当時、同一校に10年勤めたら転出異動しなければならぬという制度が都教委から示され転任することになり、原小でお世話になった当時大井第一小学校校長の仲山利一先生のお誘いで、進学校として品川の学習院とも言われた大井第一小に転任させていただきました。

学区制の当時でしたが、区域外から越境入学児童も多く、一学年が松・竹・梅・月・雪・花・星組の7学級で一学級の児童数が50人以上でした。優秀な先輩・同僚の先生方に励まされながら、私も教師としての資質の向上に努めさせていただきました。

毎週金曜日の学年会では、翌週の授

業指導案を作成し週案簿に記入して、指導力もあり厳格な教頭の梶原邦光先生に提出して確認していただきました。昭和37年3月卒業生の月組の皆さんが、私の大井第一小での唯一の卒業生です。クラス会の名称を中秋の名月に因んで「月を待つ・月の宴・月見酒・月の友」の主旨で「月の友」会として幹事さんのお世話でクラス会を開催しております。

昨年、「月の友」会の皆さんが60歳の還暦を迎えるので、4月18日にそのお祝のクラス会を開催しました。併せて担任の私が90歳の卒寿を迎えたということと同時に祝福していただきました。私は

『還暦の いのち輝く 月の友』

の句を詠んで皆さんを祝福しました。幹事さんをはじめ皆さんは、これからの大切な人生を「友愛と共生」の心でクラス会を続けていきたい……と話しておられました。

たった三年の恩師吉川先生

昭和12年卒 山崎 浩子

(旧姓・野原)

昭和6年から10年位にかけて大井第一小学校に学ばれた方々その頃の吉川久枝先生を覚えていらつしやるでしょうか。昭和6年に入学。担任の園城寺先生が産休に入られる為ご休職。代わりにお若い吉川先生が、本校では最初の男女組の私達月組を受け持たれる事になりましたが、3年生が終り4年生になった時お隣の梅組を1年受け持たれ、深尾祥之先生とご結婚の為立会小学校

へ転任された先生です。

先生は富山県八尾市のご出身。あの有名な「風の盆」の八尾市です。今にして思えば、あの時、先生にお願いして連れて行って頂けばよかったと思っております。今年、先生は白寿になられました。昨年の敬老の日に町会から「お祝を頂いた」とおつしやる先生のお頭は、生徒の私達より冴えておられ、受持った私達生徒の名前をフルネームで覚えていらつしやる昔と変わらぬおきれいな先生です。何か思い出でも書いて頂きたく、先日お伺いしてお願いました。が「そつとしておいて」ということで原稿は頂けませんでしたが、こういう素晴らしい先生が今尚お二人のお子様のお世話で昔と変わらず深尾先生とお暮しになったお家にお元気でいらつしやるという事等々を同窓の皆様知って頂きたく拙い筆を執りました。私達の憧れだった吉川先生、いついづまでもお元気で!!

卒業証書の無い卒業生

昭和20年卒 第9回同期会幹事

河井 敏弘・田島 昭

新秋の9月22日、昭和20年卒業の第9回同期会が、大井町の日本海庄屋にて男子12名で開かれた。

思えば忘れる事は出来ない昭和19年8月19日戦争激化に伴い集団・縁故疎開・残留組に分割された。疎開組は、13年慈しみ育ててくれた両親、兄弟と離れそして、約6年間友と遊び、学び楽しい思い出を残して、大井第一小学校か

ら去って行く。異郷の地では一人夜布団の中で涙を流した友の数は知れずその心境は未だ忘れ去る事は出来ない。

この様な事は、二度とあつてはならない、私たちがだけであつて欲しい。集まると出る話は全て其処に行く、今は、皆殆ど定年を迎えているが現役で活躍している友もいる。矢つ張り昭和一桁は強い、戦後を立て直した偉大な後期高齢者達に乾杯。

今回は、一人でも多くお誘いを考えたが、私達の年になると、日頃顔を合わせていけば抵抗はないが、連絡を取るのが恐怖感にとらわれるのであえて「よう、」と声を掛け合う中での話しになった。

前置きが長くなったが、卒業を控えて昭和20年3月に学び舎に戻ってきたが、それぞれまさにはばらばら、一堂に会する事は無く、書類上の卒業となり各々中学に入学した。そして昭和20年5月24日B-29の最大規模の空襲により我が母校大井第一小学校は焼失し、伝え聞くところでは、保健の石塚先生の避難した防空壕が直撃され、還らぬ人となられた。母校が焼け崩れ落ちるの見た友もいる。未だに醜に焼きついてい



ると涙ながらに語る。

話は、尽きないが、20年卒業生は、松竹梅月の4クラス約170名位と皆は言う（同窓会名簿には3組男女148名）、正確には判らず集団疎開組は、男女合わせて112名の記録は有るが、現在の卒業名簿は、昭和58年11月23日第一回同期会を開催した時、人伝てや読売新聞等で呼び掛けて、男子48名女子39名合計87名が既存のものです。

昭和、平成を駆け抜けてきた、大井第一小学校昭和20年の卒業生は、卒業証書は無いけれど、他の卒業生より心に校風は人一倍強く焼付いており、大井第一小学校を卒業出来た事を誇りにしております。

遊びの王様

昭和21年卒 風間 要

子供の頃の遊びには、メンコ、ペーゴマ、ビー玉、三角ベース、陣取り、とんぼ捕り、竹馬乗り、石蹴り、などなどとその選択には限りない楽しさがいっぱい詰まっていた。

もちろん将棋とか五目並べなど室内の遊びにも興味があったが、まさに子供は風の子の通り外での遊びに熱中していた。

特に休み時間の校庭では馬跳び、押しくらまんじゅう、ドッジボールなどに限られていたが、そこには寒さ対策の知恵があったような気がする。

遊びの原則として、主流はアウト・ドアであって仲間だけの秘密の領域があったこと、そして仲間は常に同級生

を中心と同じ行動をとりながら、更に上級生とのつながりが大事な役目を果たしていた。

昭和15年、私たち仲間は揃って大井第一小に入学した。当時、学校には本校舎に接した大校庭のほか一年松・竹・梅・雪組の順にならぶ教室に囲まれて、もう一つの小校庭があった。そこだけは私たち新入生に限られた空間である。体力差のある高学年と一年生との間の安全面で学校側の配慮があったのではと今になって思う。

上級生になり広い大校庭で遊び始めた頃に遊びとは云えないが、もうひとつのアイテムが誕生した。佐久間先生のご指導で本校舎と小校庭の間に、本格的な土俵が完成したのである。相撲が体操の正課に含まれていたか、或いはクラブ活動の一環であったか、まったく覚えがないが、元々好きな相撲だけに多くの仲間たちと喜び合い、稽古に熱中したものである。

自分の好きな力士の四股名を勝手につけてはお互いに呼び合ったこともあった。角メンと云うトランプ大のメンコにも力士が登場したのもこの頃だったと思う。メンコを内緒で学校に持ち込んでお互いの持ち分を見せ合い優劣を争ったり、交換し合ったりしたことも思い出のひとつである。

遊びのもうひとつのルールとして、遊びの道具は手造りであることが伝統であって、先輩から学んだ知恵と工夫を、いかに自分の個性として表すかを競い合ったりした。

絶対に勝つペーゴマ、負けないメン

コなど工夫を凝らしたものである。高学年ともなると凧とかゴム動力飛行機などの作り方にやや手の込んだものも現れ腕前を争った。

今でも鮮明に頭の中に残っている作品には畳にせまる大凧、背丈けを越えるグライダーの模型を見た時の驚きである。なかでも傑作は長大な竹馬である。塀によじ登り、そこからでないに乗れない位いの背高ノソポの竹馬で、通りを悠々と歩いて来るのには度胆を抜かれた。余りにも素晴らしい発想だが、私には怖くて乗ることは出来なかったが、きつと素晴らしい眺めと屋根の上の猫の目線で人間の動きをつぶさに観察出来たに違いない。

我が家は平家住まいで、二階のある友人が羨ましかった頃のことなので尚更体験出来なかったのは残念である。

この発想と、実際に通りを悠々闊歩されたご本人とは、先輩のあの高名なMさんご兄弟である。学業成績は勿論のこと、運動然り、万能にたけたお二人である。なかでも発想の素晴らしさと行動力には目を見張るばかりである。家が近くでもあったので、遊びだけでなく本当に沢山の事を教えて頂いた。この中から得た宝物は今も立派に輝いて見える。

「遊びは子供にとって仕事である」そんな時代を振り返りながら、遊びの王様。否、私にとっては人生の神様に感謝している。



大井第一小学校：ある時代 その四

昭和22年卒 山上 伸也

「日野」②-2

私たちの遊び場は、寺の境内、裏山、横手の墓地、田んぼのあぜ道、用水路と沢山あって不自由しないばかりか、経験したことのない新鮮でとても楽しい遊び場だった。町の子達と騎馬戦をしれば戦い、年上の子も混じる敵軍をいつも負かしたし、クサーイ銀杏の実を拾い集め、種を水洗いし、火鉢にくべて焼いて食べるのも楽しかった。美味しいとおもった。

30度ほどの傾斜の裏山は戦争ごっこや冒険ごっここのよい舞台だし、栗ひろいもした。度胸試しは墓地で、透き通る綺麗な水が流れる1メートル半程の小川に浮かぶ小さな小さな船に勝手に乗って遊ぶ、小鮒や泥鰌を網で捕まえる。

「豊田」

田んぼと畑、隣はお寺と一軒の農家、道に沿って細長く疎らに点在する農家。真正面には野猿峠をはじめとした多摩丘陵が左から右にずーっと続いて山梨のほうまで。山のふもとの一吋小高いところを京王線が通っている。その手前は浅川が。夕暮れに黒い山を背に、窓に明かりいっぱい電車が走って行くのを見ると、たまらなく都会への郷愁をそそられたものだった。

それからの1年は、戦局ますます急を告げ、慌しく時が過ぎていった。その間にもかなり楽しい遊びをした。よく

小川に魚を取りに行つたが、特に印象に深いのは、掻掘り。都会育ちの私にはまったく未経験、考えたことも無いものだった。流れを上下せき止めて、水をバケツで掬いだす。すると堰の中は、小鮒、めだか、げばち、えび、が水の無くなった底にうごめいて、手で掴める。なんて新鮮で素晴らしいんだろう。今思い出してもわくわくする。

「空襲」

サイパン島が落ちてB29の空襲が激しくなった。そのたびに山の中腹にある防空壕へ避難した。ある夜「空が真っ赤だ」と言う声に壕から出てみた。頭の上から東側、見渡す限り空は夕焼けのように明るいオレンジ色だった。恐ろしいと言う感はずきりだった。美しかった。立川飛行場も空爆されていた。そのうち背後の山から、探照灯の光を浴びながら大きなB29が現れた。とても低空だった。高射砲弾が果敢に炸裂していたが、命中はしなかった。B29を追って日本の戦闘機もやってきた。互いに機銃を打ち合いながら、やがて視界から消えていった。私たちは興奮した。赤く美しく見えた空は、3月10日、下町大空襲に燃える火の色だった。八王子もやられ、1年上の上級生が引越して行つたお寺は燃えてしまった。

戦中戦後、灰色の時代

昭和24年卒 藤田 信義

「小学校時代の思い出」をと求めら

れ、戦中戦後の東京の小学生だった私たちの世代は、どのような記憶を蘇らせるのでしょうか。楽しく幸せな回想にふけることができる方は少ないと思われまます。心身ともに育ち盛りでありながら、知的環境も衣食も常に満たされない状況でした。私自身、思い起こせば、

- ・ 国民学校入学、日本の敗色が濃厚になった。
- ・ 父兄の戦死多く、私の長兄も戦死した。
- ・ 警戒、空襲警報で授業は頻繁に中断した。
- ・ 疎開で強制的な転校、友人は四散した。
- ・ 校舍焼失、青空教室や二部授業になった。
- ・ 教科書の内容は戦中と戦後で激変した。
- ・ 戦後の食糧不足、栄養失調症が多かった。
- ・ 蚤虱の蔓延、有害殺虫剤を全身に浴びた。
- ・ などの暗く苦しかった記憶ばかりが浮かびますが、経済的に立ち直つてから小学校に入った世代には、想像不可能だと思われまます。

大井第一を卒業して六十年余、古稀を既に過ぎ、まもなく後期高齢者と呼ばれます。庚塚町に住んでいた私の行動範囲、生活圏は、鹿嶋神社から三ツ又交差点、そして大井町駅前まででした。歩道の車道寄り半分は防空壕が戦後も残り、校舎は焼失、鹿嶋神社境内には爆弾の大穴が長くそのままでした。

貧しく子だくさんの家に生まれた私には、専用の机などなく、宿題以外の勉

強などしませんでしたし、学校でも勉強に集中したという記憶はありません。大井第一についての記憶として今も鮮明に浮かぶのは、ヒマラヤの下での青空教室と錆びた鉄材や瓦礫が沈んで茶色く濁ったプールでの水遊び程度です。

小学校時代の思い出は本来ならセピア色の懐かしさを感じるのが自然でしょうが、私たちのその時期は不幸にも戦中戦後、人間が忘却の美質を持つてはいても、混乱と貧困の時代だったことを今も遺憾に思っています。

元気で長生きをするために

昭和25年卒 津川 幸子
(旧姓・鈴木)

クラスメートの医師Fさんが、大井町の「さゆりあん」で講演なさると伺いました。そこで恩師松崎滯子先生はじめ、クラスメートの方々にお知らせしました。講演のテーマは「元気で長生きをするために」。

Fさんのお話のポイントは「新型インフルエンザ」「癌」「認知症」の三点です。

①新型インフルエンザ 予防策は手洗い、うがいの励行、インフルエンザワクチンの接種などですが、高齢者はインフルエンザの後で細菌による肺炎を引き起こしやすく、重症化しやすい。これを防ぐには肺炎球菌ワクチンを接種しておくことと良いとのことでした。

②癌 癌の予防は、原因と考えられていることを避けること。その代表が

禁煙。肺がただでなく舌、咽喉、胃、すい臓、直腸、膀胱、つまりタールの通り道と出口に癌が出来やすい。私たちの体内では毎日、数百個のがん細胞が生じているが、自然消滅している。癌の芽が出てきても1〜2センチの小さな早期がんの状態なら内視鏡などで見つけて、つまんで摘出してしまえば良い、といとも簡単におっしゃる。けれども、そのためには定期的な健診が必要だと付け加えられました。

③認知症 最近の私はその傾向を強く感じていました。会話の途中で単語が出てこない。知人の名前が思い出せない。懐かしい歌の歌詞が怪しげ。身を入れて拝聴しました。認知症対策として数独などの脳トレ、絵や音楽に親しむこと、散歩、スポーツなどが有効だということでした。身だしなみ(つまりおしゃれ)やコミュニケーション(つまりおしゃれ)を楽しんだり、掃除・洗濯・料理等の家事も、前頭葉を働かせることになるので大切だというお話でした。

今日では多くの病気が予防可能となつており、かかっても重症にならずに済むそうです。病気を良く知れば、その対策が分かり、敵である病を追い払うことが出来ることのお話に、ほっとする思いでした。

講演が終わってから、いつもクラス会で集まるお店「ひろせ」に皆揃って行きまして。講演なさったFさんも来て下さり、時の経つのを忘れて遅くまで賑やかに過ごしました。その時ふと

がついたのです。家事を手早く済ませ、ちよつとおしゃれをし、食事を楽しみ、気の置けない幼馴染と他愛のないおしゃべりで盛り上がる「クラス会」。これはもう最高に素敵で認知症対策ではないかしら。みなさま、そう思われませんか？

箱根林間学園

平成5年卒 廣瀬 慶人

箱根の林間学園で最初に思い出すのは、彫刻の森美術館での真横から吹いてくる雨、宿舍の地下へと続く黒い河、真つ暗な庭でうごめく濁流です。どれも、小学生の私には初めての経験でした。自分の力ではどうにもならない物、自然の力の恐さを知ったのもこの時だったと思います。

宿舍に着くまでは、まだ雨風を楽しみ余裕がありました。目に見える状況の変化は徐々に私達から笑顔を奪っていきました。

日常生活では、それまで困った事が無かった食事、風呂、照明、の全てが思いのままにはいかず、家族から離れた特別な環境がより一層に不安感を大きくしていたように思います。

その様な状況の中、当時担任でいらつしやつた(故)武藤先生は、私達一人一人に特別な言葉ではないけれど、遣つて声をかけに来て下さいました。明かりの無い部屋は、夕方が近づくとつれてよりその暗さを増していました。が、先生が傍にいてくれる事が心強く感じられ私達の班は笑い声が溢れてい

ました。結局、予定していた事の殆どが出来なかった林間学園でしたが、日常的に当たり前にそこにある物の有り難さや人との関わりの温かさを学ぶ良い機会であつたと思います。

閉園時の栗田校長先生のお話の中にあつた水の恩恵と自然の脅威は当時五年生の私には少し大袈裟に感じましたが、特別な時に特別なお話を聞いて頂いている事をあの場にいた全員が理解し、それ故の静かな時間だつたのではないのでしょうか。

しかし、昨年の栗田先生の寄稿文を拝見し、私の考えは一変しました。一つ間違えば命の危険にさらさらされかねない状況下にあつたのだが、先生方の私達には見えない所での適切な対処と危機管理により守られていた事を理解したからです。

私達は、自分の意識していない所でいつも誰かに守られているのではないのでしょうか。

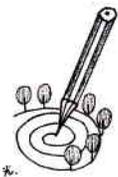
受け止め方は様々かもしれませんが、そうした事に対して感謝の念を忘れずにいたいと思います。また自分の中にその感謝の念を留めるだけでなく、私達を守るべき次の世代へと伝えていく事で、あの時に返すことが出来なかつた恩師への恩を返していきたいと考えています。

箱根林間学園

(参加者122名) : 台風直撃

平成5年卒 森 祐介

栗田校長先生の寄稿された文(会報



11号)を読み、卒業アルバムを引っ張り出してみました。

文集に私を含む多くの人達が箱根林間学園の思い出を書いていきます。

皆にもそれだけ印象的な記憶に残る出来事だつたのではないかと思います。

全てを克明に、とまではいきませんが、その時のことを振り返ってみました。

平成3年8月20日、出発当日、バスに乗車する時に小雨が降り始め、箱根に着く頃には大雨になっていました。私には記憶がないのですが、大雨の中、彫刻の森美術館を見学しようです。(卒業文集による)そのあとの予定は取り止め、急遽宿舍に直行することになりました。

宿舍に到着した時点では、建物に水は入り込んでいなかったようで、各部屋に入った生徒たちは待機状態の中、お菓子を食べたりしていました。やがて宿舍への浸水は増し、食堂、風呂場、ロビーに濁水が流れ込み停電になりました。

トイレは水が流せないため、バケツに水を入れて使用しました。

お風呂に入ること出来ず、「もしかすると食事もできないかもしれない」と私たち生徒は次第に不安を感じはじめました。

この様な混乱一歩手前の状況下、栗田校長が宿舍の廊下から窓の外を真剣な眼差しで見ている姿は鮮明に覚えています。

食堂が浸水しているため、生徒達が寝る予定の大広間を食堂代わりとしました。ガスを使った食事だけは可能

だつたようで電気がつかない暗闇の中、先生方が懐中電灯でテーブルを照らしながらの炊き込みご飯の夕食となりました。この様な状況でしたが、食事が出来たことで安心感が大きく広がっていったようです。先生方は今後の対応を協議されたり、生徒達には声をかけて下さつたので、私たちはあまり不安も緊張感も感じることがなく、暗い中で消灯時間になりました。が、電気は相変わらずつきませんでした。

確か夜の10時過ぎによく電気が復旧したと思います。

翌日、予定していた行事の大半は中止となり、2泊3日の箱根林間学園は1泊2日で帰ることとなりました。宿舍を午前中に出発、昼過ぎ学校に到着しました。

生徒達には緊迫した事態を理解できずはすもなく、途中で帰ることに不満もあつたりしました。

しかし、その裏で、暴風雨の危険にさらされた生徒達の安全を守るために先生方がどれだけ尽力しておられたか、栗田校長の文を読み、認識を改めました。

あのときの先生方の年齢に近づいた今だからこそ、当時のことを思い出し、「もし自分が引率する立場だったら」と考えた場合に、先の見えない状況の中で先生方が大変な思いで如何に苦労されたのかを少しは理解できるようになつたのではないかと思います。

実際の社会でも予想していない出来事が起きることが多々あると思います。そのときに、「あの場で適切な判断を下された先生方のように、自分は冷静な

対応で他の人に不安を与えないように出来るだろうか」と、当時のことを振り返りながら考えてみるのもよいかもしれません。

同期会報告

喜寿同期会を終えて

昭和21年卒 馬場三枝子
(旧姓・木村)

平成21年、私達は数え年で喜寿を迎えた。

今なお息災であることを感謝し、少しでも元気なうちに喜び合おうと同期会開催を決めた。陽気の良い10月8日の午、会場は品川駅真近のプリンスホテル38階である。出席者18名の返信にほっとして10月を迎えたのだが、同期会前日超大型台風が日本列島に上陸、暴風雨被害のニュースが流れた。

関東地方も夜になって風雨が募り、気象情報に釘付けになりながら8時過ぎ、男性幹事の古賀さんに電話を入れる。

同期会の中止を提案したのだった。すると一瞬の沈黙の後、彼は唯一一言「やりましょう」と静かに優しく応えた。

そして翌8日朝、依然として雨風は強かった。再び古賀さんに連絡、開始時間を30分遅らせることとし、ホテルへの連絡を頼む。私は出席者全員への電話連絡を引き受けた。

斯くして喜寿の同期会はほぼ予定通りに開催、出席者は男女7名ずつの14名であった。諸般の事情で人数は減ったが、JRの不通やバス・私鉄の遅延や

混雑にも拘らず、一人ずつ懐かしい顔が現れる度に胸がつかまった。

宴たけなわ、和氣譚話、せめて二次会だけでもと言っていた遠方からの出席者も辛うじて間に合ったのも幸いだった。全員の写真を撮り、上階の二次会の席へ移動すると、硝子張りのラウンジから周辺の景が輝いて見えた。

かつて終戦を六年生で迎えた疎開児童は、帰京しても戦災に遭った母校に入らず、止むを得ず他校に行った者が多い。

しかし、入学以降五年生まで机を並べていた仲間達は、間違いなく同期生として名簿に記載し、幼馴染の顔で集まっている。

小学校(中途)以来初めての再会もある同期会、台風にめげずに開催出来たことは、皆の熱意と的確な判断のお陰と感謝一杯である。

同期会

平成22年1月22日

昭和23年卒 土肥 義尚

同期生とはたまたま町なかで一人、二人と会うことはあっても集まる機会はめったにな

い。手早く連絡のつく範囲で久しぶ



りに顔合わせをしようという声が出て急遽12年ぶりで10名が集まった。皆さんよきジョージ、パーバになっており、互いの健康を慶びあい、昔話に花を咲かせた。

私達の「松永会」

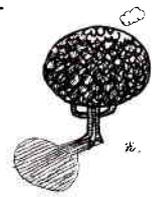
昭和31年松組卒 長谷川 眞佐子
(旧姓・本多)

平成21年(2009)の今年4月、私達生徒がお世話になった徳永昭典先生が傘寿をお迎えになりました。先生の傘寿のお祝いを兼ねて暫く振りに6年松組(昭和31年卒業)のクラス会を先般4年振りに開催しました。

私は、そのクラス会の幹事の一人に指名され、幹事役は初体験でもあり、日程や会場をもう一人の幹事役と相談して決め、同時に思い出になるようなことが出来ないかと思案した結果、偶々会場が東京タワーの近くでしたから、50周年を迎えたばかりの東京タワーに希望者のみご案内することに致しました。

幸い先生を初め、数人の東京タワー見物希望者が揃い、展望台から建設当時と様変わりしたノッポビルが林立する都心の姿を心ゆくまで眺めながら、歓談の時を忘れました。

東京タワーに関するエピソードなども先生から聞かせて頂き、まるで学校で授業を受けているような50年前の雰囲気漂い、それも楽しい思い出となりました。



「今度何時来られるか判らないから」と先生が仰り、250メートルの特別展望台に登る事になりました。お元気な先生のお姿を拝見し、常に前向きなお考えなどに接して、皆が本当にビックリしているのと、「みんなからパワーを貰っているんだよ」とサラッと言われます。又、「健康が第一だ」とも強調しておられました。

2時間近い東京タワー見物を終え、直ぐ傍の食事会場に向かいました。

数年前に出来たばかりの割烹料理屋『とうふ屋「うかい」』を食事会場にし、同窓生参加メンバーが全員揃いました。東京タワーに登らなかつた方々は既に会場に到着されていて、先生と我々を出迎えて下さいました。先生は満面の笑みを浮かべて懐かしそうに元生徒等の会釈に応じておられました。

今回のクラス会には、30年振りや50年振りに参加された方もいて、会が始まる前から楽しい会話が飛び交い、仲居さんから会の開始を促されるありさまとなりました。

17名(19名の参加希望者の内2名の都合が悪くなり欠席)の参加者が一堂に会しましたから、おもちゃ箱をひっくり返したような賑やかな雰囲気となりました。開会の前に若くして冥府に旅立った同窓生のご冥福を祈る為、1分間の黙祷を捧げました。

徳永先生から6年松組のクラス会名を決めたいとのこと発言を頂き、松組の「松」と先生の苗字から「永」を拝借して、「松永会」と先生のご案内通り命名することにになりました。書道家でもある

先生が予め用意下さっていた掛け軸「松永会」を会場正面に掲げ、その立派な墨色豊かな「松永会」掛け軸を暫し魅入っていました。クラス会を開くたびにこの掛け軸が会場に飾られることとなります。先生有難う御座いました。

閉会直前に、先生から「次回の松永会は余り先のことにならないように」とのご希望を頂戴し、今回のクラス会が成功裏に終わった事を実感しました。更に参加者全員に、先生が腕を振るわれた毛筆の色紙を各人に贈られました。その色紙の文面は「春爛漫 学びし子らと 傘寿の宴」と記されています。

私達は今年66歳の高齢者の仲間入りとなり、古稀、喜寿、傘寿を迎えられるように健康に留意して生きなければなりません。徳永先生は米寿、卒寿、白寿を越えて尚お元気にお過ごしになり、ご自愛願うことを衷心から希望しております。

徳永先生のご人望とクラスの皆さんのご支援のもとには滞りなく閉会した後、元松組の小学生が東京プリンスホテルの喫茶室に再集合して賑やかな二次会の宴となりました。

ホームカミングデー報告

昭和32年卒 大野 正恒

昨年の10月18日(日)鹿嶋神社大祭の日に合わせて、第2回の同窓会主催のホームカミングデーを催しました。

今回は「昔なつかしい小学校の写真」

展示に加え体育館にてアトラクションを行い卒業生の来場をお待ちしました。(バンド演奏・バレエ・三味線・銭太鼓) 当日は卒業生100名を含め総勢150名の方々に来ていただき、誠にありがとうございました。盛況とまではいきませんが品川ケーブルテレビの取材もあり、後日放映されたその映像をご覧になった方も多く聞いています。ご来場になった方々もお互いに交流を深めて頂いたと確信しています。

当行事は昨今の「地域社会のつながり」が薄れていく流れの中、「同じ卒業生」を切り口に「つながり」を広めて行きたいとの主旨で行っています。街角で気軽に挨拶や立ち話ができている地域って素敵ではありませんか？

今年も交流の場を作って皆様の来場をお待ちしています。是非鹿嶋大祭の日に、大井第一小学校にお立ち寄りください。

振替用紙の通信欄より

○大井第一小学校の校歌の作詞は北条誠ですが、新元澄子は北条の姉で御座居ます。亡くなる迄、小学校をなつかしんで居りました。学校の隣に住んで居たそうです。昭和3年卒新元澄子は平成20年他界しました。享年93歳。

○会報ありがとうございました。いつも楽しく拝見しております。大井第一“をより身近に感じるひととき

です。

(S13年梅卒 丹羽 敏子) 卒業して71年たちました。

(S13年月卒 榎本 勉) 5月19日、昭和15年卒月組のクラス会を、新宿・大志満でやりました。6人の楽しい集まりでした。

(S15年月卒 代田 益穂) 集団疎開のことが書かれていて、その一寸前の卒業。親が祖父母を連れて疎開し、一人中学3年で東京に残り終戦前後を過し、どんなに大変だったか。

(S18年月卒 菅野 義信) 第2回ホームカミングデイには出席したいと思っています。

(S19年松卒 貝塚 義勝) 昭和30松組卒業です。担任の石毛先生も五松の時の新堂先生も亡くなってしまい、先生不在のクラス会は淋しい気がします。

(S30年松卒 高野 路子) とても懐かしい気持ちとお世話になった先生方の訃報を見ての悲しい気持ち：といろいろな気持ちで読ませていただいています。

(S52年竹卒 金田 琴恵) いつも楽しみに、また時には懐かしさで涙ぐみながら読ませてもらっています。どうもありがとうございます。

(S57年梅卒 小島 美香) いつも会報をありがとうございます。私は鉄道好きが高じて、現在、新幹線の車掌をしています。

(H04年梅卒 高橋 重樹)

「平成21年度の教職員移動」

I 転出

校長 青木 哲男先生

教諭 (伊藤学園へ) 國米 典子先生

教諭 (旗台小学校へ) 久保田 聡先生

教諭 (町田市立忠生第一小学校へ) 近藤 史郎先生

教諭 (練馬区立豊玉東小学校へ) 平野 絢子先生

教諭 (小山小学校へ) 河原 純一先生

教諭 (大田区立おなづか小学校へ) 養護教諭 山西 玉音先生

養護教諭 (目黒区立大岡山小学校へ) 養護教諭 丹下 裕子先生

(荏原第三中学校へ)

II 休職 大矢 麻利子先生

教諭 (ロンドンへ)

第七回 同窓会総会記録

平成21年5月23日(土)午後2時

於 大井第一小学校 図書室

出席者 15名

一、会長挨拶 津田照通

二、来賓挨拶 大島校長、立石副校長

三、議事

①事業報告

②収支決算報告及び監査報告

③事業計画 ④収支予算の承認
 ⑤役員改選 ⑥その他
 以上の議事について承認決定されま
 した。

役員
 会長 津田 照通(昭和14年卒)
 副会長 土肥 義尚(昭和23年卒)

森 秀雄(昭和34年卒)
 井上 幸子(昭和42年卒)

2008年度 収支計算書
 (平成20年4月1日~平成21年3月31日現在)

項目	金額	項目	金額
(収入の部)		会議費(事)	16,110
会費収入	1,589,000	旅費(事)	0
入会金収入	45,300	通信運搬費(事)	648,438
記念誌等販売収入	1,800	事業費雑費	40,000
寄付金収入	0	事業費計	1,204,402
雑収入	5,855	[管理費]	
①当期収入計	1,641,955	会議費(管)	440
前期繰越収支額	4,028,418	旅費(管)	420
②収入計	5,670,373	通信運搬費(管)	25,620
(支出の部)		事務用品代	6,427
[事業費]		振替手数料	98,140
総会開催費	0	管理費雑費	0
秋季大会費	111,831	管理費計	131,047
会報出版費	321,862	③当期支出計	1,335,449
調査費	62,781	当期収支差額(①-③)	306,506
名簿管理費	3,380	前期繰越収支差額(②-③)	4,334,924

投稿のお願い

「文字」にして残しておきたい思い出
 等、随時投稿をお待ちしています。

10月30日までに、郵便、FAX、E
 メールで、事務局宛にお送り下さい。

会費納入のお願い

同窓会事業を継続していくには、会
 報等の印刷代、通信費、事務費、母校に
 関わる慶弔費等の諸費用がかかります。
 平成20年の会費納入者は九〇〇名で約
 七二〇〇名に第11号会報を送ることが
 できました。これからも安定した同窓
 会活動を続けていくために、会費納入
 に皆様のご理解とご賛同を心より願
 い申し上げます。

一〇一〇〇〇円
 同封の振込用紙をご利用頂き、五月
 末までにお振り込み下さい。
 (ATMでの振込にご協力下さい)

名簿の資料提供にご協力を!!
 (新住所・改姓名をお知らせください)

会報を通じ、より大きく同窓の輪が
 広がることを願ひ、正確で充実した資
 料づくりを目指していますが、毎年、相
 当な数の宛先不明の会報が戻ってきま
 す。

名簿委員会では、会報をお送りする
 ために、「個人情報保護法」に則り、同
 窓会員の皆様の自宅住所・電話番号の
 個人データを厳重に管理し、保持して
 います。転勤、結婚、転居などにより変
 更となる場合には、事務局までお知ら
 せください。

同窓会の運営について

同窓会会長 津田 照通

本校は今年創立35周年を迎えます。

最近小子化の影響で小学校も統廃合が
 聞かれる中で、区内随一の生徒数を擁
 するこの現象は、私共卒業生にとって
 誇らしい現実であります。と同時にこ
 の誇りを維持する為に、横の連携は当
 然のことながら、同窓会では縦の連携
 がより重要であり、常に新しい感覚で
 の運営が求められています。

古い歴史を大切にしながら、新しい
 物への挑戦がなければ衰退せざるを得
 ません。幸いにして本校の同窓会は比
 類ない活動を続けています。その原動
 力は母校を愛する皆様の会費納入と、
 母校の繁栄を願う理事諸氏のボラン
 ティア精神が不可欠の要件であります。

母校を愛する卒業生の一員として、
 この活動に意義を感じ、この活動に参
 加して下さる理事をご推薦頂きたくお
 願ひ申し上げます。因みに、定例
 理事会は年4回(3月・6月・9月・12
 月の第3金曜日午後7時~8時半)そ
 の他各種委員会が必要に応じ随時行わ
 れています。

編集後記

皆様のご協力で、12号を発行するこ
 とができました。又、寄稿して下さいま
 した皆様ありがとうございます。今
 回紙面の都合上、訂正したり割愛した
 箇所がありましたことを心よりお詫び
 申し上げます。

同窓生の皆様のご意見、ご感想をお
 寄せ下さい。少しでもご満足頂ける
 会報をお届けしたいと思っております。

同窓会事務局

全ての連絡事項は左記宛にお願いします。

津田 照通
 〒一四〇一〇〇〇二
 東京都品川区東品川三三三六一二〇三
 TEL/FAX 〇三三三七七三〇五〇七六
 E-mail:ohi23@ric.hi-ho.ne.jp

森 秀雄

〒一四〇一〇〇一四
 東京都品川区大井一五三一九
 TEL 〇三三三七七三〇五〇六
 E-mail:hide@mori-shoukai.co.jp

井上 幸子(旧姓 山崎)

〒一四〇一〇〇一四
 東京都品川区大井七七八一三三
 TEL/FAX 〇三三三七七五五九六
 〒一四〇一〇〇一四
 東京都品川区大井六一一三三
 品川区立大井第一小学校
 TEL 〇三三三七七一五二四〇
<http://www.1.cts.ne.jp/oichi/>

編集委員

昭和12年卒 山崎 浩子(野原)
 昭和13年卒 松崎 滯子
 昭和21年卒 白旗 洋子(池田)
 昭和30年卒 木村 親光
 昭和34年卒 森 秀雄
 昭和35年卒 上野 良子
 昭和42年卒 井上 幸子(山崎)
 昭和50年卒 藤原 正則